平成30年度 山口大学教育学部附属光中学校 学校評価書（校長 吉 川 幸 男）

1 学校教育目標

教育目標　中期（5～7年次） 生活の場で，自己の言動を振り返り，深めてゆく　後期（8～9年次） 生活の場で，強く，正しく，共に生きる

〈教育の基調〉

真（知性）…自ら求めて学ぶ子　純粋に冷静に真理を追究して知性を養う子どもを育成する。
美（心情）…美しさのわかる子　美を愛する情操豊かな子どもを育成する。
健（健康）…希望に満ちた元気な子　健康ではつらつとした子どもを育成する。
労（勤労）…進んで働く子　積極的に自分の手足を動かし，額に汗して働く子どもを育成する。
善（善意）…仲良く親切な子　おおらかに善意に満ちた子どもを育成する。

中・長期目標
① 個に応じた指導方法の改善と学力の充実
② 実生活との関連を図った心の教育の推進
③ 家庭・地域とともに進める健康・安全と体力の向上
④ 小中一貫教育研究の推進と教員養成の充実
⑤ 子どもと向き合う時間の確保に向けた業務改善の推進

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

⑴ 学力の向上

全国学力・学習状況調査等の結果から学力は良好な状態にある。しかしながら，困り感を抱える生徒がどの学年にも見られることから，個に応じた指導方法の工夫による学力の底上げが必要と考えられる。集団－個のバランスに配慮した授業づくりや学校全体での学力向上の具体的な手だての開発が求められる。

⑵ 心の教育の推進

道徳教育の充実を軸に、学校生活全体を通して豊かな心の醸成に努めていくことが必須である。人間関係の固定化や学校外での正しい言動に課題が見られることから，生徒の自主的・自律的な行動を大切にしながら規範意識の高揚を図っていきたい。

⑶ 元気創造

給食の残量は極めて少なく，食育指導の成果が見られるが，睡眠時間の少なさなど、本校独自の通学事情による課題も垣間見える。体力面では，運動競技中の骨折等のけがが多く，安全に配慮した上での運動能力の向上が課題である。

⑷ 学部・保護者・地域との連携

特定の教科等において，学部教員との密接な連携が推進されているが，すべての教科領域について学部教員と連携した教育研究の推進のための方策が必要である。家庭との連携については，学校からの情報発信にある程度の満足は得られているが，広域の通学エリアによる保護者間のつながりの希薄さも否めない。学校－保護者とともに保護者－保護者のネットワークづくりを充実させていくことが求められる。地域との連携については，学校運営協議会の立ち上げが計画されており，附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくりが求められる。

⑸ 業務改善

研究紀要の廃止，研究の進め方の工夫，月2回の一斉帰宅等，様々な取組が進められてきた。勤務環境の改善については，一層の工夫を進めるとともに，教職員個々のセルフマネジメント力の向上など働き方に対する考え方の見直しが進むような取組の工夫が求められる。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色，取り組むべき課題

○ 対話的な学びを通して，確かな思考力・判断力・表現力の育成を図る。（学力の向上）（元気創造）（学部連携）
○ 多様な関わりを通して，自他を尊重できる温かな集団を醸成する。（心の教育の推進）
○ 業務の見直しと効率化を進め，児童と向き合う時間の確保を図る。（業務改善）
○ 附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくりを推進する。（保護者連携）（地域連携）

4 自己評価

評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組（具体的方策）	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析
学力の向上	対話的な学びを通した，確かな思考力・判断力・表現力の育成	○ 主体的・対話的で深い学びについての実践と情報発信 ○ 生徒に育む資質・能力に特化したカリキュラム開発	生徒アンケート（授業関連）の肯定的な回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	4	授業関連のアンケートでは、肯定的な回答が92%となっており、学習指導においては一定の成果が上がっているものと考えられる。
	各学年の課題に応じて，保護者と連携して取り組む学力向上策の開発	○ 各学年の課題に応じた家庭学習方法の開発 ○ 生徒に育む資質・能力に応じた家庭学習方法の開発	保護者アンケート（家庭学習・学力）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	1	家庭学習等についての保護者アンケートの結果は肯定的な回答が70%弱にとどまり、本校の大きな課題としてあげられることが浮き彫りになった。
心の教育の推進	多様な関わりを通して，自他を尊重できる温かな集団づくり	○ 道徳科の授業づくりを通した，生徒の変容の見取りと評価 ○ 小中合同授業や行事を通した異年齢集団での望ましい態度の育成	生徒・保護者・教職員アンケート（道徳科）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	3	肯定的な回答はいずれも85%を越えている。特に生徒からの回答が最も高く、生徒は一定の手応えを感じていることが窺える。
	一人でもよりよく判断し，実践しようとする心情の醸成	○ 登下校中や公共の場での態度の価値付けを通した，よりよい道徳的判断力の育成	生徒・保護者・教職員アンケート（規範）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	3	特に保護者からの肯定的な回答が高い（92.7%）。ただ、公共交通機関等の利用マナーについては依然として課題が残る。
元気創造	正しく判断し，自らの生活を工夫しようとする意欲・態度の育成	○ 食育指導や保健指導、各種委員会活動等を通した，健康的な生活習慣や態度の育成	生徒・保護者アンケート（生活）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	3	生徒・保護者の回答の平均値は85%を若干越える程度であり、さらに踏み込んだ保健指導の充実が求められるところである。
	安全に楽しく運動を楽しめる運動能力の向上	○ 体育科や部活動等の運動場面を捉えた具体的な安全指導の充実 ○ 体育科の授業や家庭生活での実践を通した柔軟性の向上	保健室利用の状況（前年比） 4（50%減），3（40%減），2（30%減），1（20%減）	1	保健室利用については、1月末時点で昨年度比15%の増となっている。昨年の猛暑が影響し、夏場に利用者が急増したことが主要因としてあげられる。
学部・保護者・地域との連携	学部との連携を密にした教育研究の推進	○ 学部教員と連携した研究授業や授業公開，研修会の充実	教職員アンケート（学部連携）の肯定的回答 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	1	教職員アンケートでは、肯定的な回答が59%であり、教職員の中に学部との積極的な連携を求める姿勢が不足していることが窺える。
	学校－保護者，保護者－保護者のネットワークづくり	○ 学校webページを活用した各種情報発信の充実 ○ 非常変災等，学校の危機管理に関する共通理解と訓練の充実 ○ PTA，おやじの会への参加を通した保護者同士の絆づくり	保護者アンケート（PTA 等） 4（90%以上），3（85%以上），2（80%以上），1（80%未満）	4	保護者アンケートでは95%を越える肯定的な回答が得られた。今後も学校と家庭が緊密に連携していけるように、情報発信や絆作りに努めていきたい。
	附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくり	○ 学校運営協議会準備委員会の設立と熟議による，コミュニティ・スクールの推進	4（附属の特性を生かした仕組の構築） 3（学校運営協議会の組織づくり） 2（学校運営協議会の人選） 1（準備委員会の設置）	3	学校運営協議会は組織作りまでを終え、次年度から本格的に稼働できる状態となっている。特性を活かした組織作りが次年度の課題である。
業務改善	業務の見直しと効率化を通した働き方の改善	○ 教職員個々の勤務実態の自覚と超過勤務時間減への意識付け ○ ポイントを絞った会議や指導案検討の工夫を通した業務の効率化	○ 平均超勤時間の4月比 4（30%減），3（25%減），2（20%減），1（15%減）	3	平均超勤時間は、4 月平均が79時間弱であったのに対し、1月は58時間強となっており、25%減を達成することができた。

5 学校関係者評価

取組状況に関する意見・要望等	評価
生徒はかなり手応えを感じているようであり、達成度も妥当であると考えられる。	4
評価規準はかなり厳しめに設定されている。肯定的意見が 7 割あるので、評価としては2が妥当である。	2
道徳科に力を入れている成果が一定程度表れている。	3
交通マナー等は、一時期に比べると格段によくなってきているように思う	3
現状として概ね良好である。さらにいっそうの取組に期待する。	3
保健室利用を減ずることをもって評価規準とすることはいかがなものかと思われる。	2
教職員の意識を高めていくことが今後も重要な課題になる。	1
情報発信によるネットワークづくりについては奏功していることが窺える。	4
本年度の取組をベースに、来年度は評価規準の見直しが必要である。	3
今後も引き続き業務の見直しを進めてほしい。	3

6 学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）

＜成果＞

・昨年度から重点的に取り組んできた道徳教育については、一定の成果が認められる。規範意識についても、特に校内生活においてはかなり向上してきていることが生徒アンケートから読み取れる。

・小中合同学校運営協議会を2月末に発足させることができ、新年度からコミュニティ・スクールとしてスタートする体制が整った。

＜課題＞

・家庭学習等の充実については、本校が抱える大きな課題である。現在、小中教務部会を中心に「家庭学習の手引き」を作成しているところであるが、新年度はより充実した家庭学習の実現に向けて学校全体で取り組んでいきたい。

・学部との連携について、研究部を中心に計画的、継続的に進めていく必要がある。研究発表大会に向けての取組に今回の反省を十分反映させたい。